

## 公開講演会「現代文化を問う」

### 他者の文化の搾取はいつまで続くのか？

— オーストラリア・アボリジニー長老の報告とアピール —

渡 辺 公 三

#### はじめに

以下に掲載する英文のテキストは、上記のタイトルで1997年4月15日、末川記念会館第五会議室でおこなわれたシンポジウムの全文、および当日時間の関係で口頭報告のかたちでは実現できなかったコメント原稿の全文である。シンポジウムの中心となる講演は、オーストラリアの先住民の代表として来日中であったポール・サンピ氏（バーディ民族長老、キンバリー先住民「法と文化」センター副議長）とロバート・エギントン（ダンバタン先住民法人事務局長）のお二人によっておこなわれた。コメントは京都精華大学のタンター教授が執筆された。

お二人は、日本でも翻訳が刊行され話題となった『ミュータント・メッセージ』（角川書店刊）の著者マーロウ・モーガン氏が来日し、日本各地で講演していることに対して抗議するために、著者を追って来京された。その抗議行動の合間を縫って、貴重な時間を報告とアピールに割いていただいた。両氏は『ミュータント・メッセージ』が、オーストラリア先住民の世界を舞台として借りながら、全く現実とは異なる世界として描き、結果として先住民族文化を食物にするばかりでなく、全く虚偽の像を流布させていることに抗議したのである。

私たち国際言語文化研究所のスタッフは、こうした抗議の声に耳を傾け、当事者に直接接し、生きた交流の機会をもつことが、問われている問題を理解するもっとも確実な第一歩であると考え、この公開講演会をおこなうことにした。一週間たらずの短期間の準備および宣伝しかできなかったにもかかわらず多数の聴衆が集まり、お二人が提起した問いかけへの関心の大きさをあらためて感じさせられた。